

みえるものと みえないもの展

JR 四国宇和島運転区再生準備事業 扇形車庫ギャラリー活用

第二回 細淵 太麻紀

期間 2021年9月17日(金)～26日(日)

時間 11時～16時

場所 JR 四国宇和島運転区扇形車庫

宇和島市錦町10-6 JR 宇和島駅徒歩約5分

会場には駐車場はありませんが、土日祝は南予地方局駐車場をご利用できます

最新情報はこちら



HP



Twitter

入場無料

会場は運転区敷地内のため、受付にて安全対策ヘルメットをご着用いただきます。小学生以下の方のご入場は大人のご同伴を、また、コロナ対策のため体調のすぐれない方のご来場はお控えください。敷地内では、立ち入り禁止表示や係員の指示をお守りください。

みえるものとみえないもの展

昨年度から始まった、愛媛県宇和島市での試み「JR四国宇和島運転区再生準備事業 扇形車庫ギャラリー活用」。

扇形車庫棟内の、やわらかな光が満ちた広い空間はアーティストやクリエイターの創作意欲を刺激し、その作品制作・展示会場として素晴らしい可能性を秘めています。この場所で作られた作品を市民が気軽に親しめるギャラリーとして再生することを目指し、地元を始め多方面の方々のご協力を得てこの度シリーズの二回目を開催する運びとなりました。

人と共に長い時間を経た車庫棟の素材たちは差し込む光をほぐし、ほぐされた光はやわらかに庫内を漂います。ここにあるけれども見えていない「もの・こと」をより深く見、知る「頼り」を、作り手によりこの場所に「添え」、観客はその添えを通じてそれまで見えなかったものを見、知るようになります。この展覧会により、作家も来場者もこの場所を知り体験する機会となることを、そしてこのような展覧会を多くの作り手と協働し実現するギャラリーとして活用されることを願って企画しました。

二回目の今回は、都市や建築を人間の視点や認識のプロセスを通して考える作品を横浜を拠点に国内外で製作・発表している現代美術作家を迎え、作品を展示します。作家自らに宇和島市内を巡っていただき、見つけた宇和島らしい風景の隣接する小空間をピンホールカメラ化し撮影、その写真を展示します。さらに、庫内のかつて作業に使われていた小屋を「カメラ小屋」化し公開、内部に映りこむ扇形車庫から見える機関区の景色を来場者に体験していただきます。

細淵 太麻紀

(作品展示)

「既存の建物を暗転して小さな穴を開け、建物ごとピンホールカメラにして写真を撮影すること」で、建物自体が見てきた風景を可視化させる。この建物はどのような思いでこの風景の変遷を眺め続けてきたのだろうか。そう思ったことに思いを馳せつつ、私たちの見てきた、あるいはまだ見えていない「風景」のことを語りあうきっかけになればと思う。」

埼玉県川越市生まれ、横浜在住。現代美術作家。多摩美術大学にてグラフィックデザインと写真を学んだ後、1996年より美術・建築ユニット「PEスタジオ」に参加。2004年、横浜の歴史的建造物等を文化芸術活動に活用するBankART1929の設立に関わり以降企画運営全般に携わっている。2017年より「現像」共同主宰。

新津保 朗子

(企画・キュレーション)

「長い間遠目に見られるだけであった運転区を、市民と一緒に過ごしてみたい場所にしたくなった。数十年経過した枯れて落ち着いた車庫空間はおおらかに作品と見手をつなぐギャラリーに、自然な枝ぶりの木々に囲まれた敷地は、素足で草に駆け廻らびとと緑、風と空に親しむ原っぱが似合うと思った。」

東京都生まれ、京都市上京区在住。デザイナー。京都西陣と松山市中島の古い木造空き家で、地元市民と国内外の芸術家・クリエイターが交流する拠点を運営、交流の機会を企画する任意団体床下土風主宰。隈研吾建築都市設計事務所企画室長。2016年より中島栗井集落の紅茶づくり参加を機に愛媛県との縁が深まる。

主催：床下土風（お問い合わせはFacebookへ）、助成：公益財団法人ユニオン造形文化財団
協力：アロマハウスリーフ 看板屋ホリ・アート 九島のみなさま 蛤消防団 滋賀県立大学永井拓生研究室
BankART1929、後援：JR四国 宇和島市観光物産協会 宇和島市 伊予銀行 隈研吾建築都市設計事務所



「JR宇和島運転区扇形車庫再生準備事業」と取り組み

宇和島とその周辺の人や地域の交通を、1941年の昭和16年から守り続けてきた宇和島運転区扇形車庫。長い間市民の傍にあり、人々の記憶に深く刻まれてきた歴史的建築とその敷地を市民の場所へと再生する可能性を探るプロジェクトです。

この車庫は明治時代にイギリスから輸入されたレールを使い建てられ、その敷地には桜をはじめとした樹々が自由にゆったりと育ち、周囲を流れる大池川は夏には蛍が飛び交います。このような自然と産業・歴史・文化的な素質に恵まれた環境にありながらも老朽化のために維持が困難となっている状況の中、建物の再生活用と敷地の自然を活かした市民が親しむ場所づくりのために「JR宇和島運転区再生準備事業」は計画されました。

建物は文化の発信・交流拠点となるギャラリー、そして車庫前に広がる平地は緑豊かな市民の憩いの広場へ、地元宇和島やその他多様な分野の方々の協力を受けながら実際に空き家の文化交流拠点運営を行う任意団体「床下土風」により企画、協働による自立した運営体制の構築とその実現を目指して2020年度より取り組みが始まりました。

今回の展覧会は、扇形車庫の安全なギャラリー活用について検討・実践の場とします。滋賀県立大学永井拓生研究室も加わり、構造と展示方法の安全性の確認を行いながら会場をつくります。この取り組みは共同研究として、公益財団法人ユニオン造形財団より2021年度調査研究課題として採択され、助成研究事業として実施します。

研究課題：戦前に建設された鉄道インフラ建造物と付属する周辺空間を保存・継承し地域共有化する実践
—建造物を芸術活用するための展示方法の検討及び構造等の安全性評価と対策の立案—